

# 第15回

## 台東区子供歴史・文化検定

### 解答と解説（中学生用）

解説文の最後に、参考として『台東区歴史・文化テキスト』の頁数を掲載しています。

台東区教育委員会



問1. 正解 エ

アの鎌倉幕府は源頼朝が鎌倉に、イの室町幕府は足利尊氏が京都に開きました。織田信長は安土に城を築きましたが、幕府は開いていません。（第三版18頁、第四版17頁）

問2. 正解 ウ

アについて、浅草公園地は1884（明治17）年に全部で7区に区分されたもので、7区はのちに除外されました。六区はジャズやロックとは無関係の名称です。イについては、通称は十二階、正式には凌雲閣といい、高さは52メートル、10階までは八角形のレンガづくり、11～12階は木造でした。当初は8階までのエレベーターがありました。大正時代の関東大震災で損傷し撤去されてしまいました。エは、明治政府は1878（明治11）年に東京府を15区に分け、この時に下谷区と浅草区が誕生しました。その後、太平洋戦争を経た1947（昭和22）年に両者が合併して台東区となりました。（第三版34～35・39・42頁、第四版32～33・36・38頁）

問3. 正解 イ

「猿若」とは、初期歌舞伎で滑稽なものまねなどを演じた役柄（道化役）や、それを主人公とした歌舞伎狂言などのことです。したがって、「猿若町」とは「芝居町」という意味です。（第三版27頁、第四版25頁）

問4. 正解 ア

「疎開」とは、敵襲や災害などによる損害を少なくするため、都市部などに集中している物や人を、いろいろな地域に分散させることです。現在の台東区にあたる地域では、下谷区の小学校は福島県、浅草区の小学校は宮城県に「学童疎開」しました。しかし、1945（昭和20）年3月9日～10日にかけての東京大空襲により、卒業式と進学を目前に東京に戻っていた6年生の中で、命を失った児童が出ました。また、自分は疎開していても、この大空襲で家族を失い、孤児となってしまった児童も多くいました。（第三版41頁、第四版38頁）

問5. 正解 イ

摺鉢山は摺鉢を伏せた<sup>ふ</sup>姿<sup>すがた</sup>に似ていることから名付けられました。頂上<sup>ちようじよう</sup>の標高は約23メートルです。(第三版14頁、第四版13頁)

問6. 正解 イ

1873(明治6)年、政府により設置<sup>せいふ</sup>された公園<sup>せつち</sup>は全部で5カ所です。上野寛永寺<sup>かんえいじ</sup>の寺域<sup>じいき</sup>を上野公園、浅草寺<sup>せんそうじ</sup>の寺域<sup>じいき</sup>を浅草公園、芝<sup>しば</sup>の増上寺<sup>ぞうじようじ</sup>の寺域<sup>じいき</sup>を芝公園、深川永代寺<sup>えいたいじ</sup>(富岡八幡宮<sup>とみおかはちまんぐう</sup>の別当寺<sup>べつとうじ</sup>)の寺域<sup>じいき</sup>を深川公園、江戸時代<sup>えど</sup>以来<sup>いらい</sup>の行楽地<sup>ぎょうらくち</sup>であった飛鳥山<sup>あすかやま</sup>を飛鳥山公園<sup>あすかやまこうえん</sup>としました。井の頭<sup>いのかしら</sup>公園は1917(大正6)年に日本最初の郊外<sup>こうがい</sup>公園<sup>こうがいこうえん</sup>として開園<sup>かいえん</sup>されました。水が豊富<sup>すいげん</sup>に湧く<sup>わ</sup>ということで知られ、井戸のトップ(水源)という意味で、「井の頭」と命名<sup>めいめい</sup>されたともいわれます。(第三版32頁、第四版30頁)

問7. 正解 ア

貝塚<sup>かいづか</sup>があることから、上野桜木<sup>うえのさくらぎ</sup>のある上野台は海に近く、人が住んでいたことが分かります。(第三版15頁、第四版15頁)

問8. 正解 ア

古墳時代<sup>こふん</sup>の人々は、地面<sup>ほ</sup>を掘り下げ、柱を立てて、ワラやカヤなどで屋根をふいた、竪穴<sup>たてあな</sup>住居<sup>じゆうきょ</sup>に住んでいました。イの長屋<sup>えど</sup>は江戸時代、ウの文化<sup>ぶんか</sup>住宅<sup>じゆうたく</sup>は大正時代から建てられ、エのアパートメントハウス(アパート)が最初に建てられたのは明治時代のことです。(第三版14～15頁、第四版14頁)

問9. 正解 エ

アメ横は終戦直後の混乱<sup>こんらん</sup>した時代に生まれた商店街です。アの仲見世とウの浅草<sup>せんそう</sup>広小路<sup>ひろこうじ</sup>は江戸時代<sup>えど</sup>にすでに商店<sup>しょうてん</sup>が立ち並び<sup>なら</sup>にぎわっていました。イの佐竹商店街<sup>さたけしょうてんがい</sup>は戦前<sup>せんぜん</sup>から賑わい<sup>にぎ</sup>がありました。(第三版42頁、第四版38頁)

問10. 正解 ウ

玉川上水<sup>たまがわじょうすい</sup>は1653（承応<sup>じょうおう</sup>2）年に玉川兄弟<sup>たまがわ</sup>が多摩川上流にある羽村から四谷大木戸までの約43キロを、標高差92メートルを利用して水を引いたものです。江戸<sup>えど</sup>市中には現在の水道管に当たる樋<sup>ひ</sup>を用いて水を供給<sup>きょうきゅう</sup>しました。（第三版48～50・60・69頁、第四版43～45・55・63頁）

問11. 正解 ア

東京は明治時代の末期にたびたび大洪水<sup>だいこうずい</sup>に見舞<sup>みま</sup>われ、浅草<sup>あさくさ</sup>なども大きな被害<sup>ひがい</sup>をこうむりました。その対策<sup>たいさく</sup>として隅田川<sup>すみだがわ</sup>の水量を減らすために赤羽<sup>あかばね</sup>から下流<sup>げんざい</sup>へ向かって荒川放水路<sup>あらかわほうすいろ</sup>がつくられました。現在は荒川<sup>げんざい</sup>と呼ばれています。（第三版65頁、第四版60頁）

問12. 正解 エ

「太郎稻荷<sup>たろういなり</sup>」は、江戸時代<sup>えど</sup>に生まれた流行神<sup>はやりがみ</sup>の中でも代表的なもので、浅草田圃<sup>あさくさたんぼ</sup>にあった柳川藩立花家<sup>やながわはんたちばなけ</sup>の下屋敷<sup>しもやしき</sup>の鎮守<sup>ちんじゅ</sup>（その家や地域<sup>ちいき</sup>を守るためにまつられた神）として、国元<sup>りょうち</sup>（その大名の領地<sup>かんじょう</sup>）から勧請<sup>しんぶつ</sup>（神仏<sup>ぶんれい</sup>を分霊してまつること）してつくられた神社です。多くの流行神は、一時的に人々の信仰<sup>しんこう</sup>を集め、時期<sup>す</sup>を過ぎると一気に衰退<sup>すいたい</sup>していきしましたが、中には入谷の太郎稻荷神社<sup>げんざい</sup>のように、現在も地域の人々などに親しまれ、残っているものもあります。（第三版60頁、第四版54頁）

問13. 正解 ウ

瓦版<sup>かわらばん</sup>は、江戸時代<sup>えど</sup>から明治時代にかけて数多く摺<sup>す</sup>られた、現在の新聞や雑誌などにあたる大衆向けの印刷物<sup>たいしゅう</sup>でした。（第三版67～68頁、第四版61～62頁）

問14. 正解 ア

区内には、寛永寺と浅草寺に「時の鐘」があります。現在でも毎日、寛永寺は朝夕6時と正午、浅草寺は朝6時に鳴らされています。（第三版67頁、第四版56～57頁）

問15. 正解 エ

段ボールが日本で使われるようになるのは、明治時代以降のことです。（第三版58頁、第四版52～53頁）

問16. 正解 エ

ペットボトルは便利な容器で広く普及していますが、日本で最初に使われたのは1977（昭和52）年で、比較的历史の浅い工業製品です。（第三版79・81頁、第四版72・74頁）

問17. 正解 エ

つげ櫛は、静電気が起きにくく、髪や地肌にも優しいということから、昔から愛用されてきました。（第三版75頁、第四版69頁）

問18. 正解 ウ

台東区生涯学習センターのあるかっぱ橋商店街の通りには、かつて新堀川という川が流れていました。しかしこの川はよく氾濫したことから、この川を広げる工事を行ったのが合羽屋喜八という人物で、またこの時に隅田川のかっぱたちが協力したという伝説もあります。この新堀川は多くの荷下ろし場所として利用されたことから、現在は、飲食店向けの道具などを扱う道具街に発展しました。（第三版112～113頁、第四版101～102頁）

問19. 正解 イ

トロリー（英 trolley）とは、一般的には台車や手押し車を意味する語ですが、この場合は集電装置の先端にある「触輪」のことを指しています。トロリーバスは、日本国内では立山黒部の立山トンネルトロリーバスが2024（令和6）年に廃止されたのを最後に消滅していますが、海外ではいまだ使われているところがあり、チェコ共和国の首都プラハなどでは、かつて廃止されたトロリーバスが、排ガスを出不さい交通手段として改めて注目され、2018年より46年ぶりに復活しています。（第三版86頁、第四版77～78頁）

問20. 正解 エ

第二次世界大戦前、隅田川を定期運航していた「一銭蒸気」は、吾妻橋から永代橋までを7つの区間に分け、1区間1銭で運航していました。ポンポン蒸気とも呼ばれた「一銭蒸気」の愛称は、広く親しまれ、料金改定後もそのままの名前で呼ばれました。なお、1銭は1円の100分の1にあたります。（第三版90頁、第四版81頁）

問21. 正解 イ

蔵前橋は隅田川にかかっていますが、浅草橋、柳橋は神田川にかかっています。隅田川にかかる都内の橋は、鉄橋や首都高などを除いて、新神谷橋から築地大橋まで現在は26を数えます。（第三版95～97頁、第四版85～87頁）

問22. 正解 イ

舟を使うと荷物をたくさん運ぶことができました。江戸時代には堀割（用水路や排水路）や土手（堤防）などがつくられ、台東区内には川や水路が網の目のように流れていました。（第三版89～90頁、第四版80～81頁）

問23. 正解 ウ

門前町<sup>もんぜんまち</sup>が成立することによって、その周辺<sup>しゅうへん</sup>も発展し、市街地化<sup>しがいちか</sup>がいつそう進むという効果<sup>こうか</sup>もありました。（第三版105頁、第四版95頁）

問24. 正解 ア

七福神詣<sup>しちふくじんもう</sup>では現在でも人気のある行事で、お正月に多くの参詣者<sup>さんけい</sup>を集めています。（第三版116頁、第四版104頁）

問25. 正解 エ

雷<sup>かみなり</sup>は、雷雨<sup>らいう</sup>を伴い、激しい稲光<sup>いなびかり</sup>によって人々の恐怖<sup>きょうふ</sup>をあおり、さらには落雷<sup>らくらい</sup>による火災<sup>かさい</sup>なども起こることから、人々に大変恐れられてきた自然現象<sup>げんしょう</sup>のひとつです。特に近世以前は、災い<sup>わざわい</sup>の象徴<sup>しょうちょう</sup>のひとつとしてとらえられていました。雷除けは本来は赤いトウモロコシだったのですが、トウモロコシが不作だったためお札に代わったものです。雷除け<sup>かみなりよ</sup>の札は、雷だけでなく災い<sup>さい</sup>を避けるという意味でも人々に求められました。（第三版122頁、第四版109頁）

問26. 正解 ウ

年末<sup>としご</sup>の西の市では「福を掻きこむ熊手<sup>くまで</sup>」として、お多福<sup>たふく</sup>や千両箱<sup>せんりょうばこ</sup>、稲穂<sup>いなほ</sup>などをつけた熊手<sup>えんぎもの</sup>が縁起物として境内で売られています。（第三版124頁、第四版111頁）

問27. 正解 ウ

将軍吉宗<sup>よしむね</sup>が催<sup>もよお</sup>した隅田川<sup>すみだがわ</sup>の水神祭に合せて披露<sup>ひろう</sup>された花火は隅田川<sup>すみだがわ</sup>川開きの花火<sup>きげん</sup>の起源<sup>しじょう</sup>になりました。戦争の事情で中断しましたが、1978（昭和53）年に復活しました。（第三版122頁、第四版109頁）

問28. 正解 ア

節分<sup>せつぶん</sup>の行事には、お寺や神社などにより色々な方法があります。「鬼は外、福は内」というかけ声が一般的です。（第三版117頁、第四版105頁）

問29. 正解 エ

まないた開きは、二匹の鯉<sup>こい</sup>をまないたにのせ、手を触れずに長い箸<sup>はし</sup>と包丁で調理する儀式<sup>ぎしき</sup>です。（第三版117頁、第四版104頁）

問30. 正解 ア

毎年1月8日に行われる行事で、竹をもった子供たちが「とんとんとん」といながら地面をたたきます。正月飾り<sup>かざり</sup>を燃やす<sup>も</sup>この火にあたると1年を元気に過ごせるともいわれています。（第三版116頁、第四版104頁）

問31. 正解 エ

台東区内には、自然、遺跡<sup>いせき</sup>、建物、所蔵物<sup>しょざうぶつ</sup>等に多くの文化財<sup>ぶんかざい</sup>が残されています。（第三版130・139・142頁、第四版115・123・127頁）

問32. 正解 イ

駒形堂<sup>こまがたどう</sup>は何回か建てかえられていて、元禄時代<sup>げんろく</sup>までのお堂は川からお参りできるように隅田川<sup>すみだがわ</sup>の方を向いて建てられていました。1923（大正12）年の関東大震災<sup>かんとうだいしんさい</sup>で焼失<sup>しょうしつ</sup>したお堂は1933（昭和8）年に中尊寺<sup>ちゅうそんじ</sup>（岩手県<sup>ひらいずみ</sup>平泉<sup>こんじきどう</sup>）の金色堂<sup>こんじきどう</sup>にならって建て直されました。今のお堂は2003（平成15）年にさらに新しく建てかえられたものです。（第三版131頁、第四版116頁）



問33. 正解 イ

待乳山<sup>まつちやましようでん</sup>聖天<sup>ほんりゅういん</sup>は、正式には待乳山本龍院<sup>きんちやく きんぶくろ</sup>といい、大根と巾着<sup>きんちやく</sup>（砂金袋<sup>きんぶくろ</sup>）がシンボルとなっています。大根は消化がよく栄養価<sup>か</sup>が高いところから健康増進<sup>けんこうぞうしん</sup>・一家和合<sup>いっか</sup>のもと、巾着は金銀財宝<sup>きんぎんざいほう</sup>で商売<sup>しょうばい</sup>繁盛<sup>はんじょう</sup>を表しています。（第三版128～129頁、第四版114頁）

問34. 正解 ウ

この文章に列記された特徴<sup>とくちょう</sup>は伊東玄朴<sup>いとうげんぼく</sup>の解説<sup>かいせつ</sup>です。伊東玄朴は西洋医学による医療<sup>いりよう</sup>を行いました。特に天然痘<sup>てんねんとう</sup>を予防する種痘<sup>よぼう</sup>を実施<sup>しゅとう</sup>したことで知られます。墓<sup>はか</sup>は谷中<sup>てんりゅういん</sup>の天竜院<sup>よこやまたいかん</sup>にあります。アの横山大観<sup>よこやまたいかん</sup>は区内に記念館もある明治～昭和の日本画家。イは日本を代表する漫画家<sup>まんがが</sup>。エは江戸時代中期の本草学者、戯作者<sup>えど げさくしゃ</sup>の一人です。（第三版149・150頁、第四版133頁）

問35. 正解 ア

岡倉天心<sup>おかくらてんしん</sup>は文明開化による西洋化の流れの中で、日本美術<sup>びじゅつ</sup>の復興<sup>ふきゅう</sup>に努め、海外への日本文化の紹介<sup>しょうかい</sup>にも寄与<sup>きよ</sup>しました。（第三版157・158頁、第四版141～143頁）

問36. 正解 ウ

黒田清輝<sup>くろだせいき</sup>は、近代日本洋画の父とも言われる人物です。1928（昭和3）年に完成した黒田記念館<sup>くろだきんねんかん</sup>は、当時の美術館建築<sup>びじゅつかんけんちく</sup>の様式で建てられました。その特徴的な外観と空間のデザインは改修<sup>かいしゅう</sup>後も引き継<sup>つ</sup>がれ、現在では登録有形文化財<sup>げんざい とうろくゆうけいぶんかざい</sup>となっています。（第三版161～162頁、第四版146頁）

問37. 正解 エ

池波正太郎<sup>いけなみしょうたろう</sup>は1923（大正12）年に生まれました。上野・浅草<sup>こきょう</sup>を故郷とし、江戸<sup>えど</sup>の下町<sup>ぶたい</sup>を舞台とした数々の時代小説を残しました。台東区立中央図書館内には、池波正太郎記念文庫<sup>もう</sup>が設けられています。（第三版169頁、第四版152頁）

問38. 正解 ア

ロッシュは駐日<sup>ちゅうにち</sup>フランス公使、パークスは駐日<sup>こうし</sup>イギリス公使、グローニン<sup>ぐんかん</sup>はロシアの軍艦「ディアナ号」の船長です。（第三版166頁、第四版149～150頁）

問39. 正解 イ

東京には5つの目の色をした五色不動<sup>ごしきふどう</sup>があり、五色とは目白・目赤・目黒・目青・目黄の各不動のことです。現在の目白（豊島区）・目黒（目黒区）の地名は、この五色不動にちなんだものです。（第三版135頁、第四版120頁）

問40. 正解 イ

葛飾北斎<sup>かつしかほくさい</sup>は、勝川春章<sup>かつかわしゅんしょう</sup>の弟子<sup>でし</sup>でしたが、破門<sup>はもん</sup>されてしまいました。北斎は、様々な画風<sup>がふう</sup>を学び、90歳で亡くなるまでたくさんの作品を残しました。（第三版154～155頁、第四版139頁）

問41. 正解 ア

江戸時代中期に『誹風柳多留<sup>はいふうやなぎだる</sup>』という本を出して有名になりました。柄井家は代々、浅草新堀端<sup>しんぼりぼた</sup>の地主<sup>せんにゅう</sup>でした。川柳<sup>しやちゅう</sup>という号は代々社中で受け継がれ、現在は16世尾藤川柳<sup>びとう</sup>です。（第三版165頁、第四版149頁）

問4 2. 正解 ア

テキストには写真も掲載されていますが、木製信号機は1919（大正8）年に上野松坂屋前の広小路交差点に設置されたのが日本での始まりです。この標識板には「トマレ」「ススメ」とカタカナで書かれていて、当初は手で標識板を回して用いていました。電灯式のものは昭和に入ってからのもです。（第三版188頁、第四版168頁）

問4 3. 正解 イ

1872（明治5）年、外国人居留地となっていた築地において外国の要人をもてなす場が必要とされたことから、ホテル築地精養軒が開業しました。しかし、同日に起こった銀座の大火で、築地精養軒は開業当日に全焼してしまいます。それでも翌年には精養軒は再建され、明治9年には上野公園内に上野精養軒がオープンしました。その後上野精養軒は、日本で最初の本格的な西洋式レストランとして、明治期における洋食文化の中心的存在となっていきました。（第三版172頁、第四版154頁）

問4 4. 正解 エ

不忍池では、1898（明治31）年に自転車レース、1901（明治34）年にオートバイレース、1902（明治35）年に自動車レースが行われました。どのレースも、日本で初めてのことでした。（第三版180～181頁、第四版161～162頁）

問4 5. 正解 ア

ソメイヨシノは、吉野桜などと呼ばれていましたが、上野の博物館員の藤野寄命により1900（明治33）年にその名が発表され、広く知られるようになりました。（第三版177頁、第四版159頁）

問46. 正解 ウ

1949（昭和24）年に両校が統合され東京藝術大学げいじゅつとなりました。（第三版177～178頁、第四版159～160頁）

問47. 正解 イ

この作品は朝倉文夫あさくらふみおの作品です。アの旧岩崎家住宅きゅういわさきけしゅうたくは越後高田藩榊原家えちごたかだはんさかきばらけの屋敷地やしきちで、ここに三菱財閥みつびしざいばつの岩崎久彌ひさやが邸宅ていたくを建てたものです。アトリエではありません。ウの一円庵いちえんあんは江戸千家七代目えどせんけの蓮々斎れんれんさいが建てた茶室ちやしつ（有形文化財）とゆうけいぶんかざい。エの横山大観よこやまたいかんは日本画家です。（第三版195頁、第四版175頁）

問48. 正解 イ

この問題の最大のヒントは世界文化遺産せかいぶんか遺産に登録されたということです。アの旧東京音楽学校奏楽堂きゅうとうきょうおんがくがくどうは重要文化財じゅうようぶんかざいに登録されていますが、世界文化遺産の登録ではありません。ウの東京国立博物館とうきょうこくりつはくぶくわんも重要文化財ではありますが、世界文化遺産には登録されていません。エの表慶館ひょうけいかんは東京国立博物館とうきょうこくりつはくぶくわんの敷地内しきちないに建設けんせつされた美術館びじゅつかんで、やはり重要文化財ではありますが、世界文化遺産の登録はないものです。（第三版207頁、第四版187頁）

問49. 正解 イ

講道館こうどうかんは文京区に移転いってん、再建さいけんされました。一方、永昌寺えいしょうじは現在げんざい東上野とうじやうにあり、発祥はつしょうの地の石碑せきひが置いてあります。柔道ふきゅうは世界に広く普及し、オリンピック種目にもなっています。（第三版189頁、第四版169・170頁）

問50. 正解 イ

樋口一葉ひぐちいちようは明治時代の女流作家です。一葉の代表作『たけくらべ』は、下谷龍泉寺町したやりゅうせんじまちに住んでいたときに構想くさうを得て執筆しつぴつされました。（第三版197頁、第四版177頁）



